

訪問看護ステーション出向研修を終えて



富山県立中央病院
石坂 香奈実

研修の目的



自分自身が在宅療養へのイメージができないまま在宅支援に関わっており、本当に患者や家族の思いに沿った支援ができているだろうか…

研修を通して…

療養する患者やその家族の視点に立った在宅支援を提供するためには、看護師間の情報共有や連携にどのような視点が必要なのか学び、今後の在宅支援に活かしたい。

研修では…

朝のミーティング風景



看護が必要な方の自宅へ訪問しケアを実施



地域の方に向けた
健康教室への参加

事例 (A氏 80歳代 男性)



【病名】 進行胃癌
(終末期)
アルツハイマー型
認知症あり
妻と長男(脳梗塞による
身体障害あり)との
3人暮らし
県外に長女在住

～訪問時の関わり～

- ・ 初回訪問時に担当者会議への参加

→利用者に関わるスタッフが一同に集まることでケアの方向性を確認。

- ・ 病状進行における症状の出現と活動性低下

→状態観察と症状緩和、状態に合わせた身辺介助。

利用できる福祉サービスの情報提供。

- ・ 家族へのケア

→今後起こりうる状態変化について情報提供。

症状への対処方法の指導、看取りへの支援。

思いの傾聴とサポートする。

グリーフケア。

事例から学んだこと

- 24時間対応で看護師が傍で寄り添うことができない難しさ、状態変化を先読みした対応を行いながら、家族への安定期からの具体的な説明を行う大切さ
- 利用者と家族が過ごす日常生活がより良いものになるよう、ケアの相談や思いの傾聴を行い、家族と共に選択する
- 利用者と家族の希望を尊重し、気持ちに寄り添いながら支える多職種チームの連携の大切さ



研修全体から学んだこと

1、地域では利用者や家族の生活を中心としたケアを実施

病院では…



「〇〇の病気の患者さん」

病気の治療や
病院のルールが優先される

地域では…



「病気は生活の一部」

- ・利用者や家族の思いを優先
- ・希望に沿った生活を送るためには、どのようなケアが必要なのか相談や助言、情報提供をする
- ・個別性に合わせた関わり方が大切

2、症状の早期発見、利用者が安心して過ごせるケアの実践

フィジカルアセスメントを用いた観察に加えて、
利用者の表情や動作、室内環境にも目を配る

次回の訪問までの間に安全安楽な生活が継続できるよう、
事前に情報提供し、状態悪化予防に繋げる



3、利用者中心のケアを実現するための多職種連携

利用者の生活を支えるチームの一員として共に働くことで、
希望に添った切れ目のないケアへ繋げる…

多職種間で方向性を統一し、
それぞれが適切なタイミングで専門性を発揮することが大切

～今後、病棟看護師として取り組みたいこと～

- 早期に意志決定支援に取り組めるコミュニケーション能力の向上
- 在宅での療養生活がイメージしやすいような説明内容
- 生活スタイルに合わせた医療のシンプル化を目指した療養指導と医療処置、ADL低下予防
- 地域のスタッフが把握したいケア内容や患者家族の思い等を的確に提供し、病院と地域とのスムーズな連携に努める

在宅療養に向けて
患者家族が持っている力を支える！

